慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	中国語学習辞書における中日同形類義語の用例について：中国語語彙指導の観点からの考察
Sub Title	Examples of similar words (overlap type) between Chinese and Japanese in the Chinese learner's dictionary : from the perspective of Chinese vocabulary teaching
Author	浅野, 雅樹(Asano, Masaki)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2022
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.123, No.2 (2022. 12) ,p.182 (75)- 198 (59)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	髙橋智教授退任記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01230002-0182

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

中国語学習辞書における
中日同形類義語の用例について
～中国語語彙指導の観点からの考察～

浅野　雅樹

0. はじめに

共通点が多いながらも、日本語の同形語と語義や用法などの面で僅かな差異が認められる中国語の学習語彙が存在する。中国語の“重大”、“文章”、“利用”、“合作”、“困难”等、一般的に「中日同形類義語」[1]と称される語は、日本語母語話者の中国語学習者にとって、発音を除けば、語形、語義、用法などの面で習得が一見容易であると考えられる。しかし、実際のところ同じ同形語でも、同形同義語、同形異義語、或いは異形語などと比較すると学習や習得が最も困難で、母語の干渉を受け、エラーが生じやすいタイプであることはよく指摘されている[2]。

本稿は二音節の実詞を中心とした中日同形類義語に着目し、日本語母語話者の中国語の学習語彙となり得る事例に対して、主に既刊の中国語学習辞書における「用例」を収集し、分析する。学習者の目に触れる機会が多く、また教師が指導上使用することも多い学習辞書において、どのような用例の提示がなされているのかという点を明らかにする。その上で、語義、用法、語用面等の語彙情報に依拠して、学習者の語彙学習や指導の観点から、より効果的で必要性が高いと見なすことができる用例について考察を行なう。日本語母語話者の学習者にとって難易度が高い中日同形類義語を中心とした中国語の語彙学習に対する指導内容や方法の再検討及び改善が本稿の主たる目的である。

1. 学習辞書の用例

文法、音声、語彙に関する言語知識を教授する場合、それに関する用例（実

例）の提示を行なうことは不可欠である。指導する教師側から見れば、学習者に対する語彙指導において、具体的にどのような用例を教育実践の現場で導入し、またどのような方法で用例を活用するのかという課題が存在する。

中国語の語彙学習において、語の用例に関して学習者が目にする機会が多いのは、学習辞書、単語帳、学習参考書などに付されるものであると言える。管見では、日本で使用される授業用テキストにおいて、とりわけ実詞については新出語句（語釈）等の箇所で取り上げられ、音声表記のピンインと語義を示す訳語が付されることが多い。しかし、連語や文の形式の用例が提示されることは少ない[3)]。したがって、学習者が使用する辞書において表記される用例は、学習及び語彙指導の面から見れば、重要であることに疑う余地はない。また、学習者のレベルを問わず、指導において重要な言語資料として位置づけることが適当であると言える。

語彙指導における用例提示は、学習者のレベルや技能面での学習内容、語の語彙的性質に応ずるなど、様々な角度から考える必要がある。この語に対してはこの用例というように画一的に確定することは困難である。ただ、文法項目と同様、語彙指導においても、用例を示すのが理想的であり、一つの学習語に対する用例の選定と使用に関する妥当性を十分に検討する必要があると筆者は考える。

「見出し語」、「語義記述」、「意味項[4)]」、「用例」、「参照情報」など、辞書のミクロ構造をなす要素の中でも、「用例」は学習辞書や中日辞典などの二言語辞書においては、その重要度は増すと言える[5)]。辞書の使用者の語への理解を促進し、また学習語彙としての習得度を高める作用をもたらす用例に対する探求は辞書の編纂者や指導する教師側の課題となる[6)]。

本稿では、以下に示す中国で出版された学習辞書六冊及び日本で出版された二言語辞書二冊を使用して、中日同形類義語の用例を収集し、考察を行う[7)]。

・《汉语教与学词典》商务印书馆2011年
・《现代汉语学习词典》商务印书馆2010年[8)]
・《当代汉语学习词典》商务印书馆2020年
・《商务馆学汉语词典》商务印书馆2007年
・《HSK中国汉语水平考试词汇大纲－汉语8000词词典》北京语言文化大学出版社2000年
・《学汉语用例词典》北京语言大学出版社2005年

・『中日辞典（第3版）』小学館2016年
・『中日辞典（第3版）』講談社2010年

2.中日同形語と同形類義語に関する研究

中国語と日本語の二言語の同形語に関する研究は盛んで、借用語としての語彙交流史の視点から同形語の存在理由が示唆されている。また、なぜ同形語でも語義や用法の両面で差異を有する事例が比較的多いのかという問題についても、多くの論考が見られる[9)]。とりわけ近年は、この同形語に関する数多くの研究論文や学位論文が発表されている。また何宝年(2012)、施建军(2019)、庄倩(2018)、王志军(2019)など、中日同形語をテーマとした学術研究書も出版されている。そのほか、個別の同形語を取り上げ、その語義や用法、品詞性の相違等について考察、分析を行なう研究も多い。

また、語学教育や学習の面でも、同形語は中国語母語話者の日本語学習及び日本語母語話者の中国語学習の双方で同様の問題が存在していて、実証的なアプローチによる研究成果や実践報告が発表されている[10)]。さらに、学習者向けの中日同形（異義）語辞典も出版されている[11)]。同形語の中でも、中国語教育上の中日同形類義語に対する先行研究としては、鲁晓琨(1990)、刘富华(1998)、林玉恵(2002)、竹田治美(2005)などがある。また、李冰（2008）は、《汉语水平词汇与汉字等级大纲》の“甲级词”に含まれる1033語のうち、658語の中日同形語があるとの調査結果を示す。そのうち意味が基本的に同じであるのが446語で、全体の67％を超えるとされる。意味が全く異なるのは84語で全体の12％を超え、そのほかの128語は意味に共通部分と相違部分があるとの記載がある。また、王志军(2019：11)では、先行研究における統計を総括した結果、二字の中日同形類義語は同形語全体の10％～25.4％の比率を占めるとの記載が見られる。

3.語彙情報と辞書における意味項[4)]の設定

中日同形類義語とされる二語の間に存在する共通性と差異に対する記述をめぐっては、通常、語義・用法・語用面での特徴に応じて示されることが多い。これは同じ二語の間の差異を示す語彙指導における類義語弁別と同様であり、語彙論

的な範疇における視点から行われるのが普通である[12)]。

教育実践現場における語彙指導の際は、これらの語彙論に関する事項について、よりやさしくかみ砕いた内容と方法で教師が説明を行うことがある。完全に意味が異なる同形異義語と比べると、同形類義語はその僅かな差異の説明が求められるため、様々な語彙情報の側面から分析する必要性が高い。学習辞書においては、これらの事項が語義記述の部分、もしくは「提示」「解説」「参考」などの欄に直接的に明示されることがある。また二言語辞書では、「見出し語（学習対象語）」に対して、例えば、「发动：（1）始める. 発動する. 開始する.」[13)]のように語義記述の箇所で日本語の対訳語が示される。学習者はこれらの箇所に記された内容により、おおよその相違を認識することも可能である。ただ、母語の干渉を受けやすく、学習者にとって最も難解な同形類義語については、詳細かつ奥深い理解が必要である。そのため、さらにその用例において、二語間の差異が顕著で、その差異を示す語彙情報をより如実に反映した用例を選定し採用することが肝要であると考えられる。

学習辞書における用例は見出し語に対する意味項に応じて表記するのが一般的である。一つの見出し語に対して設けられる意味項の数は辞書によって異なることがある。これは、同形類義語についても例外ではなく、例えば、“利用”という語について調べて見ると、二つの意味項を立てる辞書が多いながらも、一つ或いは三つの意味項を立てる辞書も見られる。同形語の二語間の差異を示す語彙的性質や特徴は意味項のレベルで区別することがある。その場合、日本語との差異を示す内容は意味項における語義記述で明示されることがほとんどであり、その下に表示する用例も、その性質や特徴を反映しているものがほとんどである。ある中国語の同形類義語について、例えば、意味項①は日本語の同形語と同じで、意味項②は日本語にはない、或いは異なるものであるとの理解が比較的容易にできる。一方で、“适用对象”、“搭配”、“语气”、“感情色彩”などの差異がある語については、それらの性質や特徴が意味項のレベルで区別がなされず、同一の意味項の中に含まれ、また明示されない事例も多い[14)]。このタイプについては、中日二言語間の同形語の差異がより僅少なものとなる傾向にある。学習者は通常、日本語の同形語とは異なる語彙情報を辞書の記述内容から認識することができない。このような意味項の下に付される複数の用例は、日本語と同様であるものと相違があるものが混在することになる。学習辞書における用例の導入や機能につ

いて考察する場合、このような主に二つの意味項の立て方に応じた検討が必要となる。

4. 語彙学習・指導における中日同形類義語の位置づけ

一般的な学習者の学習状況に応じて考えると、語彙学習において対象となる語は当然のことながら本稿で取り上げる中日同形類義語だけではない。多種多様な語彙学習における内容の中で、教師側は学習語彙全体の一部分として中日同形類義語に相当する中国語の語彙を日本語の同形語との差異に注意し、負の転移が起こらないように指導する必要がある。

中日同形類義語に限定して学習を進める環境がある場合は、「中日同形（異義）語辞典」などを使用して、一度に大量の語彙を詳細に学習ができる。また指導の場においても、教師が授業で専ら同形類義語を取り上げ、解説や練習を行なうことも可能である。しかしながら、主に大学で中国語を学習する一般的な学習者にとっては、常用される「中日辞典」といった二言語辞書、または学習辞書や単語帳の使用に加えて、さらに中日同形語辞典などの専門辞書を常時の学習において即座に使用することはやや難しい面がある。

一般的な学習辞書や二言語辞書における見出し語の一部の同形語には、補足的に「提示」「参照」などの箇所でその差異に関する説明が表記されることがある。ただ、すべての同形類義語にこのような表記があるわけではない。日本語との相違に関する内容の明示がない語については、辞書の語義記述や意味項の中から日本語との相違を見い出し、認識する必要性が生ずる。

このような状況に照らし合わせて言えば、難度が高く、学習上重要度が高い同形類義語に対しては、日本語の同形語との差異が明確に反映されたより多くの用例を提示することが望ましいと言える。つまり、学習者が学習プロセスの中で、差異を示す語彙情報が明確に読み取れるような用例を大量かつ優先的にインプットすることにより、半ば暗示的に同形類義語を学習及び習得するための仕組みを作ることが可能である。無論、学習者が同形類義語のエラーを引き起こすことを防止する効果もあると言える[15)]。このような理由から、本稿では語彙学習全体の中で、いかに効率的に同形類義語を指導するのかという視点に基づき、学習辞書の用例に関する選定と機能に関する論考を以下で試みたい。

5. 学習辞書における「中日同形類義語」の用例に関する調査

筆者はこのたび、おおよそ初級から中級レベルの学習語彙と見なすことができる中日同形類義語、計50語を対象に学習辞書計八冊における「用例」について調査を行なった。

日本語母語話者の中国語学習者が同形類義語に対して、これらの学習辞書からどの程度理解を深めることができるのかという観点から、まず意味項の立て方についての辞書間の異同に注目した。さらに、辞書で採用されている個々の用例を観察することにより、日本語の同形語と共通性が高いもの、もしくは学習者の語彙学習にとって効果的なものが全体の用例の中で、どの程度示されているのかという点を考察した。その上で、各語について語彙的な特徴や性質の面で日本語の同形語との差異が明確に認識できる用例を筆者の判断で抽出した。下表はこのたび筆者が調査対象とした中国語の学習語彙としての中日同形類義語と見なせる50語について、前述の八冊の学習辞書を調査した結果を示したものである。意味項数については、例えば“保持”の「1(8)」という表記は、一つの意味項を立てる辞書が八冊あったことを示す[16)]。また、例えば“爆发”の「1(3)-2(4) -3(1)」という表記は、一つの意味項を立てる辞書が三冊、二つの意味項を立てる辞書が四冊、三つの意味項を立てる辞書が一冊あったことを示す[17)]。また、「用例１」と「用例２」については、収集した複数の用例の中で、同形類義語の学習・指導という観点から、学習者にとって特に有益であると見なせるものを筆者の判断で二つ選択して、表示した。

＜表＞

	意味項数	用例１	用例２
保持	1(8)	希望同学们～联系《教》	老师与同学～良好的关系《现》
抱负	1(7)	他从小就很有抱负，总想当个作家《学》	在他很小的时候，妈妈就教育他要有远大的抱负《学》
爆发	1(3)-2(4) -3(1)	这次罢工～得很突然《教》	观众席上～出一阵热烈的掌声《講》
参加	1(4) -2(4)	姐姐～了公务员考试《当》	他是三年前～工作的《８》
策略	1(2) -2(5)	面对竞争，这家公司很讲究策略，终于占（zhàn）领了市场《学》	教育孩子也要有～，不讲～的粗暴批评适得其反《当》
场合	1(8)	在公众～不要穿得太随便《教》	说话要看场合《用》

成绩	1(5) -2(3)	这个地区环境治理取得了很大成绩《学》	这一段工作很有成绩《用》
初步	1(8)	我对他的了解只是～的《 8 》	A: 你毕业以后想做什么 ?B: 我初步考虑要出国留学《用》
出生	1(8)	这孩子一～就爱笑《当》	你哪年～的？《講》
断绝	1(5) -2(1) -3(1)	父亲～了他的经济来源《当》	这件事～了他出国的念头《当》
翻译	2(7)-3(1)	她已经当了五年翻译了《用》	同声～《講》
发觉	1(8)	这次来到北京，他～北京的空气变干净了《当》	她好像并没发觉我们《用》
夫妻	1(8)	他们两人一起工作了很多年，后来成了～《教》	我们是夫妻，我当然知道他喜欢吃什么《学》
广大	2(4) -3(4)	公司服务非常周到，深受～用户的信任《教》	读书活动能培养～中学生朋友的阅读兴趣《当》
贵重	1(7)	真挚的爱情，一旦失去了，你才会觉出它的～《 8 》	来中国旅游的时候，她买了很多贵重的礼物准备送给朋友《用》
合作	1(7) -2(1)	她俩密切～，获得了女子双打冠军《现》	他俩既是～伙伴，又是竞争对手《当》
集合	1(2)-2(4) -3(2)	这部著作～了各种学术观点，很有价值《 8 》	公司在～各方面意见的基础上，修订了此计划《当》
极端	2(2) -3(5) -4(1)	刘工对事业极端认真，对朋友极端热情《用》	～天气（指极冷、极热、强降雨等偏离正常状态的特殊天气）《当》
集团	1(8)	他是某集团的总经理《用》	这家报纸参加了刚成立起来的报业～《教》
积极	1(1) -2(7)	在这次讨论中，这篇文章起到了～作用《教》	他对学生会的工作十分～《现》
建议	2(8)	你能不能建议建议去海南旅游？《用》	那两件衣服都不错，我～她两件都买《当》
减少	1(7) -2(1)	出国时间一长，孩子的来信逐渐减少了《用》	精简机构 jīgòu, ～层次 céngcì《小》
教训	2(7) -3(1)	他老骗人，真该～～他《当》	我昨天把弟弟～了一顿《教》
教育	2(5) -3(3)	这件事使她受到了～《当》	我永远不会忘记这件事对我的教育《用》
接待	1(6) -2(2)	他热情地～了我们一家人《教》	博物馆从上午九点到下午五点～观众《小》
巨大	1(8)	家乡发生了巨大的变化《学》	为了按期完成设计，他们做出了～的努力《教》
科学	2(8)	他们的方法很科学《用》	他吃得太不～《当》
困难	2(3) -3(5)	外国留学生要看懂京剧 Jīngjù 很～《小》	要在这座城市买套房子，对他来说太～了《当》
利用	1(2)-2(5)-3(1)	利用在北京工作的机会，更好地了解中国《教》	中国队利用身高的优势赢得了这场比赛《学》
浓厚	2(4)-3(2)-4(1)	他对下围棋有～的兴趣《现》	我们大学的学习气氛比较浓厚《用》

评论	2(7) -3(1)	口语比赛结束后，留学生就热烈地评论起来《用》	到底好不好用，请大家来～《当》
人员	1(6)-2(1)-4(1)	现在哪种人员最容易找工作？《用》	市里十分关心失业～的生活《教》
认可	1(4) -2(3)	你的说法，我不能认可《用》	对于他俩的婚事，双方父母都已经完全～了《当》
容易	2(8)	这个歌儿很容易唱，听两遍就会了《学》	A: 暑假去旅游，买火车票容易吗 ?B: 太不容易了！《用》
伤害	1(8)	他的话极大地伤害了大家的感情《学》	打骂只会～亲子关系，并不能起到教育的作用《当》
深奥	1(7)	爷爷的话很深奥，我听不懂《用》	我觉得这个问题很浅显，他们却觉得很～《当》
提供	1(8)	几条新的地铁线路为广大市民～了方便《教》	历史给我们～了有益的经验《现》
痛快	2(2)-3(5)-4(1)	昨天是我的生日，朋友们玩儿得很～《教》	孩子们都回家过年了，老人感到很痛快《学》
同意	1(7) -2(1)	她想出去玩儿，可爸爸不～《当》	我同意和他一起去公园《学》
顽固	1(3)-2(1) -3(4)	留学生说汉语时，有些错误非常顽固，总改不掉《学》	老孙真是个顽固的人，对什么新鲜事物都看不惯《用》
危害	1(3) -2(5)	吸烟会～身体健康《当》	环境污染～着人们的健康《教》
文章	1(1)-3(6)-4(1)	他经常在报刊上发表～《８》	这句话里大有～《教》
消费	1(8)	这个商店卖的都是生活～品《教》	这款手机人人都～得起《当》
性格	1(8)	夫妻俩都比较注意孩子～的培养《当》	豪放的～《講》
严肃	3(7) -4(1)	他是一个很严肃的人，从来不跟人开玩笑《学》	我们的工作态度要～认真《当》
宴会	1(8)	庆祝国庆的时候，举行了盛大的（shèngdà grand）～《教》	宴会的规模很大，宴会大厅里充满了热烈的气氛《用》
要求	2(7) -6(1)	学校～学生八点到校《当》	妈妈要求他必须按时回家《学》
意见	2(8)	你有什么意见说出来，别光生气《用》	学生对学校提高学费意见很大《学》
援助	1(8)	这两个国家结成联盟，约定一方受侵，另一方要出兵～《当》	全国人民全力援助灾区人民《用》
重大	1(8)	他们为环境保护事业做出～的贡献《８》	这项研究，意义重大《用》

6 . 二語間の区別を示す語彙情報に応じた用例提示について

前節では学習辞書に提示される中日同形類義語と見なせる語についての用例を調査した。本節では日本語と中国語の同形語の差異を示す語彙的な性質や特徴に応じて、それらが反映されているか否かという点から、学習と指導の面で効果的

な用例について考察を行なう。前節で示した通り、庄倩(2018)では二語の間の差異を記述する内容・方法として、九点の事項を挙げている。本稿では、これらを参照した上で、“词义范围”、“词义虚实”、“感情色彩・语气”、“语法功能・词性”に分類し、以下で調査した中の一部の同形類義語について、収集した用例に対する考察を行なう。個々の同形類義語の間にある差異については、主に先行研究における論述や辞書における記述を参照した。

6－1.“词义范围”

・“广大”

日本語の「広大」より、意味範囲が広い語であると見なせる[18)]。学習辞書においては、二つ或いは三つの意味項が立てられるが、その中で日本語にはない「範囲や規模が大きい（広範な）」という意味項に応じた用例が二語間の差異を示す。これらの意味項に応じて示される用例の中でも、とりわけ人数の多さを表現した下記の①～③のような用例が学習者にとって最も重要になると言える。

また、学習辞書にはフレーズ単位で示す用例も多いが、“广大”の修飾を受ける中心語が人を示す“～群众/～读者/～百姓/～青年/～消费者”《当》などについては、学習者にとって有用性が高いと判断できる。その一方で、「面積や空間が広い」という意味項に付される“中国地域～,经济建设的任务很艰巨”《教》、“东北～的平原地带很适合大规模种植粮食作物”《当》のように、日本語の「広大」とほぼ同じ意味で使用されている用例も見られた。

①公司服务非常周到,深受～用户的信任《教》[19)]
②这一消息引起了～网民的热议《当》
③读书活动能培养～中学生朋友的阅读兴趣《当》

・“合作”

日本語の「合作」より、意味範囲が広い語であると見なせる[20)]。上の“广大”と異なり、ほとんどの辞書では意味項は一つであるため、複数の用例の中に日本語の「合作」と同じような意味で使用される例と、差異が顕著である例が混在している状況が見受けられる。“～顺利/共同～”《当》、“～出版”『小』『講』、“互相～”《8》など、フレーズ単位の用例は日本語の「合作」との差異は読み取りに

くいと見なせる。

また、“这本书是他们俩～编写的”《教》という用例のように、双方が協力して組織や個人が何かを具体的に作り上げるという日本語の「合作」と近い用例がある。その一方で、下に示す④～⑦のように、人や組織の間の協力や提携という関係性を示す用例については、日本語の「合作」との差異が明確であり、学習者にとっては重要である。

④进一步发展友好～关系《教》
⑤她俩密切～，获得了女子双打冠军《现》
⑥他俩既是～伙伴，又是竞争对手《当》
⑦我和那家公司已经合作了近三十年《用》

6－2.“词义虚实”

・“伤害”

中国語の“伤害”は、生命体の身体など、意味的には実在するものに使用するだけでなく、抽象的な概念である「感情」「思想」などに対しても使用する。一方で、日本語の「傷害」の対象となるのは、身体や物品など、実在するものにほぼ限定される[21)]。“伤害”は調査したすべての辞書で意味項は一つであるため、複数の用例の中に、日本語の「傷害」と同じような意味で使用される例と、差異が顕著である例が混在している状況が見受けられる。例えば《学》では、一つの意味項の中で、四つの用例を提示しているが、そのうち、“抽烟伤害身体／不要伤害小动物”の二つは日本語の意味と近く、その対象が具体性を伴うが、後ろの二つ（下記⑧⑨）は、人間の感情という抽象的なものが対象となっている。日本語母語話者の学習者にとっては、日本語の意味・用法とかけ離れた後者の二つの用例の有用性が高いと言える。また、⑩は対象が人間関係に関する例であるが、これは感情面での事項が対象となる例より、さらに抽象性が高まるため、日本語の「傷害」とは相違面が大きい例であると見なせる。そのため、学習者に対し“伤害”の正確な理解を促すには不可欠で、最も優先すべき用例であると言える。

⑧这件事使他的心理受到伤害《学》
⑨他的话极大地伤害了大家的感情《学》

⑩打骂只会～亲子关系，并不能起到教育的作用《当》[22)]

・“保持”

日本語の「保持(する)」と比較すると、中国語の“保持”はその対象は抽象的な意味を示す語が中心であり、具体的で実在的な語とは結びつかないとされる[23)]。ただ、抽象的な意味を示す語の中でも、“保持”と結びつく個々の例を見ると、日本語では一般的に「保持」を使用しない例がいくつか見られる。《8》には“～现状/～联系/～关系/～记录/～速度/～信誉/～优势/～安静/～卫生/～沉默”といった“保持”の後ろに置かれるフレーズの用例が示されている。この中では、“～现状/～记录”のように日本語の「保持」とほぼ同じ用例も見られる。一方で、“～联系/～关系”の例は学習者にとって、とりわけアウトプットの面で難易度が高いと言える。したがって、同形類義語の学習度という観点から判断すれば、下の⑪や⑫のような用例の有用性が高い。

⑪希望同学们～联系《教》
⑫老师与同学～良好的关系《现》

6－3.“感情色彩・语气”

・“重大”

中国語の“重大”は日本語の「重大」と語義の面では、ほぼ同様である。しかし、所謂“感情色彩”の面で日本語とはやや異なる[24)]。中国語の“重大”は“褒义词”としても使用できる形容詞で“重大的贡献”、“意义重大”など、感情的なニュアンスとして良い意味の形容詞としても使用できる。調査したすべての学習辞書において、“重大”は一つの意味項のみが立てられていた。そのため、その複数の用例の中には、日本語の意味・用法と同様のものと異なるものが混在している状況がある。フレーズ単位の用例では、“问题～/影响～/责任～”《8》など、日本語の「重大」とほぼ同じ意味で使用される例がある。その一方で、“收获～”《8》、“取得qǔdé～成就”『小』などは、日本語の同形語との相違から日本語母語話者の学習者にとって、重要な用例であると見なせる。また“你们肩负的责任十分重大”《用》などの用例文と比較すると、“褒义”を示す例と見なせる下の⑬や⑭などの方が、日本語の干渉を受けず、正確に中国語の“重大”を理解するため

の必須の用例であると言える。

⑬他们为环境保护事业做出～的贡献《8》
⑭这项研究，意义重大《用》

・“策略”

“感情色彩”の面で、日本語の「策略」はマイナスのイメージで使われることが多いが、中国語の“策略”は中性的なニュアンスを帯びている点の相違が最も顕著であると言える[25)]。下に示す⑮～⑰などの例は日本語の「策略」とは大きくかけ離れた意味を示す用例である。“感情色彩”の面で見れば、“褒义”を示す例で、そのまま日本語の「策略」と訳したり、解釈したりすることはできない。学習者のアウトプットのみならず、インプットの面でも、このような用例における“策略”を正しく読み取る能力をつけるためには、必然的にこれらの用例の重要性が高まると言える。そのほか、学習辞書では名詞と形容詞に分けて二つの意味項を立てるものが多いが、日本語の「策略」は形容詞的な用法で使用されることはほとんどないと言える。そのため、⑱などの例も学習者にとって重要となる。

⑮不要蛮干，要讲点儿～『講』
⑯面对竞争，这家公司很讲究策略，终于占（zhàn）领了市场《学》
⑰教育孩子也要有～，不讲～的粗暴批评适得其反《当》
⑱这样做也太不策略了《用》

6－4. 语法功能・词性

・“危害”

日本語の「危害」は名詞であるのに対して、中国語の“危害”は名詞及び動詞の用法を持つ。動詞として使用された場合、他動詞として後ろに目的語を伴うことが多い。これらの同形語は語義面では、ほぼ同じであると見なしてよいが、このような文法機能の面で相違が見られる[26)]。多くの学習辞書では、動詞と名詞に分けて二つの意味項を立てるが、同形類義語の学習の面から言えば、動詞の用例の方が学習者にとって重要である。下に示す⑲～㉑のように助動詞の後ろに置かれる例、後ろに目的語を伴い、さらに直後にアスペクト助詞を伴うなど、典型的

な動詞としての例を多用することにより、中国語の“危害”には日本語の「危害」と異なり、動詞の用法があることに対する理解を深めることができる。

⑲吸烟会～身体健康《当》
⑳大气污染严重地～了人民的生命安全《8》
㉑环境污染～着人们的健康《教》

・“科学”

日本語の「科学」は名詞であるが、中国語の“科学”は名詞と形容詞の用法を持つと見なされるのが一般的である[27)]。ほとんどの学習辞書は名詞と形容詞に分けて、二つの意味項を立てる。名詞の用例の大多数は日本語の「科学」の語義とほぼ同様である。例えば、“自然科学/社会科学/科学发达/热爱科学/先进的科学/生命科学/发展科学事业/科学研究/学习科学知识”《学》などは日本語の「科学」と差異は少ない。一方で、形容詞の方の用法については、日本語の「科学」と若干の差異がある。形容詞の中の用例でも、“我们应该掌握科学的学习方法”《学》のように文中で限定語として使用されている用例より、以下に示す㉒～㉔のような程度副詞の後に置かれ、述語として使用されている例や、“得”の後の補語となる用例が同形類義語の学習面では効果的であると考えられる。

㉒他们的方法很科学《用》
㉓这种说法不太科学《用》
㉔他吃得太不～《当》

7. 結語

以上、本稿では日本語母語話者の中国語学習者にとって難解な日中同形類義語の学習辞書における用例について、考察を行なった。日中同形類義語は、その関係性から「①中国語の同形語に意味・用法が多い、②日本語の同形語に意味・用法が多い、③中国語と日本語の双方の同形語に別の意味・用法が存在する」という三つに分類ができることはよく知られている。同じ同形類義語でも、日本語の同形語からの干渉を受けるという点を中心に考えると、それぞれのタイプに応じ

た語彙指導の方法や内容を検討する必要性が生ずると言える。本稿で取り上げた用例についても、この三つのタイプに応じて考察を一層深める必要があるが、今後の課題として研究を続けたい。

語彙指導における「用例」の提示は学習辞書に限らず、教育の実践現場において使用する授業用テキストにおいても可能である。日本の大学等で使用されるテキストでは、動詞、形容詞、名詞などの実詞について、初級や中級のレベルを問わず、一般的には用例が付されることは少ない。学習者の語彙学習及び語彙指導の充実を図ることを目的とするなら、中日同形類義語などの特に難解な語彙については、テキストにおいて用例を付すスタイルが望ましいと考えられる。このような語彙の諸問題を含めた、新しいタイプのテキスト開発の可能性についても引き続き探求していきたい。

注

1) “同形近义词”「同形近義語」と称されることもあるが、本稿では一律に「同形類義語」と称する。

2) 同形語の分類については様々な見方が提起されるが、一般的に、「同形同義語」「同形異義語」「同形類義語」に分類ができる。「同形語」の中でも日本語母語話者の中国語学習者にとって「同形類義語」の難易度が高いという点は、王顺洪（2008：116－119）、李冰(2008：48－49)、朱勇(2009：116)等で指摘されている。

3) 中国の国際漢語教育用の一部のテキストでは、“词语释例”といった見出しで、実詞に対しても用例を含めて、かなり詳細な説明が付されている。

4) 辞書学の領域で用いられる中国語の“义项”について、本稿では「意味項」と称する。

5) 刘川平（2006）では,“解释性、功能性、适应性、现实性、交际性、浅易性、协调性、兼容性、多样性”という辞書の用例に関する九点の原則が提起されている。黄建华、陈楚祥(2003：60)、蔡永强（2016：132－146）には学習辞書の用例に関する原則や機能についての記述があり、参照した。また、中国語の学習辞書の用例については拙稿、浅野(2019)でも述べ、同形類義語では“集合”と“习惯”の例について言及した。

6) 山岸勝榮(2004：113）では学習和英辞典の編纂に際し、「辞書用例学」の確立を提唱するとの記述が見られる。この「辞書用例学」を「辞書収録用の句例・文例の適切性や妥当性を研究し、もって辞書、言語教育および言語学習の質の向上を目指す学問」と定義づけている。

7) 本稿はこれらの辞書における「用例」を収集し、考察することを目的とするものである。辞書自体、または辞書間の評価を行なうことは目的としていない。

8) 《现代汉语学习词典》は学習辞書ではあるが、どちらかと言えば国内の母語話者向けの辞書である。

9) 日本では沈国威(2017)、荒川清秀(2018)、大河内康憲(1992)、曾根博隆(1988)等の研究がある。

10) 中国語を第一言語とする日本語学習者にとっての同形類義語の習得の問題については加藤稔人（2005)、小森和子(2010)、小室リー郁子(2017)等で、実証的な方法を中心とした研究が展開されている。その論考における主に同形類義語の難易度についての指摘は、本稿において参照した。

11) 郭明輝等(2011)、王永全等(2007)、上野恵司、魯暁琨(1995)などの辞書や学習書がある。

12) 庄倩(2018：16)には“一 词义重合/部分词义相通/词义局部相同/词义范围不同 二 词义的虚实不同（抽象、具体）三 词义的微妙差别 四 语义强弱/语气强弱/语感强弱 五 语义色彩（感情色彩/语体色彩）六 语义对象/使用对象/修饰对象/动宾对象/使用习惯不同 七 构词法不同 八 词类语法功能/词性不同 九 单义词/多义词”という同形類義語の差異を示す九点の事項とその点に言及した先行研究が一覧表の形で示されている。そのほか、日中同形類義語の差異を考える場合、二言語辞書で示す「対訳語（日本語)」からの考察が可能である。本稿では対訳語の観点からの問題は考察の対象に含めず、稿を改めて論じたい。

13) 『中日辞典（第3版）小学館』（424頁）より。

14) 魯暁琨（1990)、胡军婷(2021：9－23)を参照した。

15) 中日のどちらか一方の同形語が有する「独自義」と双方の同形語が有する「共有義」という観点から述べれば、「独自義」の方を示す典型的な用例を優先的に採用するということになる。同形語の「独自義」と「共有義」については、小森和子（2010：13－16）に詳細な記載が見られる。

16) 《当代汉语学习词典》の意味項の立て方について、基礎的な意味項の下にさらに“子义项”として、a)b)c)という記号で、下位分類がなされている例がある。本稿ではこの“子义项”については、意味項としてカウントしていない。また、辞書によっては数字ではなく「品詞」により項目立てをしているものがあったが、同様に意味項と見なしてカウントした。また、“义项”の全般的な問題については、主に张志毅、张庆云(2015：216－218)、于屏方（2016：187－188）を参照した。

17) “抱负”の例のように、辞書の合計数が「8」にならない例があるが、これは該当する語が見出し語として収録がなかった辞書があることを示す。

18) 上野恵司、魯暁琨（1995：132)を参照した。

19) 以下、提示する用例について、①～㉔は筆者が付した通し番号である。

20) 『中日辞典（第3版)』小学館』（618頁）には、「“合作”は複数の人や組織・団体が

対等な立場で「協力して…する」ことであり,日本語の「合作」よりも使用範囲が広い.」との記載がある。また、王永全等(2007：50)は、「現在、“国共合作”などの歴史用語のほか、日本語の「協力」「提携」などの意味でも使う。」としている。

21) 郭明輝等(2011：319)を参照した。

22) 《当代汉语学习词典》では一つの意味項を立てるが、その下位分類としてさらに四つに分類している。

23) 上野恵司、魯暁琨(1995：84)、柳纳新(1997a)を参照した。

24) 侯仁锋(1998)を参照した。

25) 郭明輝等(2011：237－238)を参照した。

26) 柳纳新(1997b)を参照した。

27) 侯仁锋(1998)を参照した。

主要参考文献

蔡永强2016.《对外汉语学习词典学》学林出版社

何宝年2012.《中日同形词研究》东南大学出版社

侯仁锋1998.容易误用的日汉同形词举例《日语知识》(10)：26-30页

胡军婷2021.汉日同形近义词的异同比较及其习得研究.上海师范大学硕士专业学位论文

黄建华、陈楚祥2003.《双语词典学导论(修订本)》商务印书馆・北京

李冰2008.中日同形词比较研究 —以《汉语水平词汇与汉字等级大纲》甲级词为中心《云南师范大学学报(对外汉语教学与研究版)》第6卷第4期：43-49页

刘川平2006.对外汉语学习词典用例的一般原则《辞书研究》第4期：99-106+114页

刘富华1998.HSK词汇大纲中汉日同形词的比较研究与对日本学生的汉语词汇教学《汉语学习》第6期 ：41-46页

柳纳新1997a.关于日汉同形近义词(上).《日语知识》(6)：22-25页

柳纳新1997b.关于日汉同形近义词(下).《日语知识》(7)：23-25页

鲁晓琨1990.汉日同形近义词辨析方法《外语与外语教学》第1期：1-6页

施建军2019.《中日现代语言同形词汇研究》北京大学出版社

王顺洪2008.《日本人汉语学习研究》北京大学出版社

王志军2019.《汉日同形词计量研究》郑州大学出版社

于屏方2016.《外向型学习词典研究》商务印书馆

张志毅、张庆云 2015.《理论词典学》商务印书馆

朱勇2009.基于对日汉语词汇教学的汉日同形词研究《现代语文(语言研究版)》(6)：115-118页

庄倩2018.《中日同形近义词习得研究》南京大学出版社

浅野雅樹2019.中国語学習辞書の「用例」についての考察 —二音節の実詞に対する語彙的性質からの視点を中心に『中国研究』第13号：pp.29-57

荒川清秀2018.『日中漢語の生成と交流・受容 —漢語語基の意味と造語力』白帝社

上野恵司、魯暁琨1995.『おぼえておきたい日中同形異義語300』光生館
王永全、小玉新次郎、許昌福 編著2007.『日中同形異義語辞典』東方書店
大河内康憲1992.日本語と中国語の同形語『日本語と中国語の対照研究論文集（下）』大河内康憲（編）くろしお出版：pp. 179-215
郭明輝、磯部祐子、谷内美江子、小谷俊介 共編著2011.『日中同形異義語1500』国際語学社
加藤稔人2005. 中国語母語話者による日本語の漢語習得 -- 他言語話者との習得過程の違い『日本語教育』 日本語教育学会学会誌委員会 編 125号：pp. 96-105
小森和子2010.『中国語を第一言語とする日本語学習者の同形語の認知処理』風間書房
小室リー郁子2017.『中国語母語話者のための漢字語彙研究　―母語知識を活かした教育をめざして』くろしお出版
沈国威2017.『 近代日中語彙交流史: 新漢語の生成と受容（改訂新版新装版）』笠間書院
曾根博隆1988.日中同形語に関する基礎的考察『明治学院論叢』424号：pp. 61-96
竹田治美2005.「日中同形類義語」について『人間文化研究科年報』第20号：pp. 335-342
山岸勝榮2004.辞書用例学の提唱とその実践『レキシコンを考える』原口庄輔（編）開拓社：pp. 111-152
林玉恵2002.日華・日漢辞典からみた日中同形語記述の問題点 ―同形類義語を中心に―『世界の日本語教育』12：pp.107-121

出典略称記号

《教》: 施光亨、王绍新主编《汉语教与学词典》商务印书馆2011年
《现》: 商务印书馆辞书研究中心编《现代汉语学习词典》商务印书馆2010年
《当》: 张志毅主编《当代汉语学习词典》商务印书馆2020年
《学》: 鲁健骥、吕文华主编《商务馆学汉语词典（双色本》商务印书馆2007年
《８》: 北京语言文化大学汉语水平考试中心编《HSK中国汉语水平考试词汇大纲-汉语8000词词典》北京语言文化大学出版社2000年
《用》: 刘川平主编《学汉语用例词典》北京语言大学出版社2005年
『小』:『中日辞典（第3版）』北京商務印書館、小学館2016年
『講』: 相原茂編『中日辞典（第3版）』講談社2010年

［附記］
本稿は、2022年度慶應義塾学事振興資金（個人研究）の研究成果の一部である。